

まちだ市民クラブ市議会レポート

町田市議会議員



るか

特集号

発行 町田市森野2-2-22 3F まちだ市民クラブ会派 090-3810-3892 rukaru.info@gmail.com

2024年3月一般質問

町田市の歴史や伝統の継承について

質問のねらい

今村か議員によると、青山藤吉郎元市長に始まり、寺田和雄元市長、そして大下勝正元市長が逝去され、直接その時代のお話を伺うことが出来なくなりました。

私たちの町田市政の歴史をきちんと記録し後世に継承することは大変重要であると考え、町田市の基本的な姿勢を伺いつつ、公文書の適切な管理や町田市史や町田市教育史などを刊行すべきと提案するためにも取り上げました、とのことでした。

町田市の答弁

生涯学習部長

市民の財産である市の歴史や伝統を継承することは、大変重要であると認識。

1968年の市制10周年を機に着手した町田市史の編さん事業が1976年に終了いたしました。その後、1986年には、町田市史の編さんで収集した資料や情報を継承するため、町田市立自由民権資料館を開館。

また、2022年4月には、インターネット上で町田市の考古・歴史・民俗資料を見ることができる「町田デジタルミュージアム」を公開。

市史編さんにあたっては、組織体制や、編さん期間、さらに、費用など多くの課題がある。また、デジタル社会が急速に進展していることを踏まえ、今後どのように市史の編さんに取り組むのか、引き続き研究する必要がある。

総務部長

「2023年3月一般質問での今村か市議が「町田市の公文書管理を一層適切なものに改めるよう指摘したことを受け」←事務局加筆

公文書管理につきまして、2023年12月に、「町田市歴史的・文化的資料の選別に関する要綱」を制定し、歴史的・文化的資料を選別するための基準を定めました。2023年度から、明文化された客観的な選別基準に従って、文書を保有する各課が選別を行っております。

市民の福祉のお困りごとへの対応について

質問のねらい

今村か議員によると、毎年3月の第3火曜日は世界ソーシャルワークデーです。近年、福祉に関わる相談・支援ニーズは多様化・複雑化・複合化しているとされ、ソーシャルワークの重要性は一層増していると言えます。

そこで国家資格である社会福祉士や精神保健福祉士などの専門職を相談支援に関わる施設に配置とすべきと考え、町田市の様々な取り組みを質すことにしましたとのことでした。

町田市の答弁

地域福祉部

市では、高齢者支援センターや障がい者支援センター、地域子育て相談センター、生活支援課、保健所等、福祉の各分野に特化した相談窓口を設置し、支援が必要な人に対して迅速かつ適切な支援を行っている。

近年は、「8050問題」や「ダブルケア」といった福祉の各分野を跨いだ複雑化・複合化していると認識。そのため、2025年度までに、市内全域に地域福祉コーディネーターを配置し、あらゆる福祉の困りごとについて話を伺い、必要な支援につなぐ体制を整える。

今村か市議の要望

子ども、障がい、高齢者、〇ごと相談と各相談センターが増えているので、市内にある各センターの効率化と専門職必置、さらに犯罪被害者支援については法に基づき市の計画策定を求めました。

2024年6月一般質問

町田市内の雇用・労働環境などについて

質問のねらい

今村か市議によると、コロナ禍を経て、民間では人手不足が深刻化し、市内企業への支援に一層取り組まなければならない、また、市役所の職員採用でも毎年応募が減少し、優秀な職員採用が難しくなっています。また障がい者雇用率は法律の基準を守ることが出来ない状況が続いています。

東京都職員であるものの、小・中学校の先生方のメンタルヘルスによる休職が社会問題化しており、働き方改革なども喫緊の課題です。こうした課題に対する町田市の取り組みなどを質し、町田市内で安心して働き続けられる環境づくりを求めたとのことでした。

町田市の答弁

ハローワーク町田の統計資料によると、町田市の有効求人倍率は、2021年度0.63倍、2022年度0.94倍、2023年度1.12倍で推移しております。

職種別でみますと、特に建設業と福祉職の人手不足は顕著であり、2024年3月における建設業の求人倍率は約7倍、福祉職の求人倍率は約3倍となっております。

町田商工会議所とともに、町田市内で働きたい求職者に対して面接会などを開催し、市内事業所の人材採用を支援する取り組みを行ってまいります。

町田市職員採用試験の申込状況としては、年々減少傾向にある。そのため、より多くの方に町田市役所で働く魅力を発信するため、就職説明会の積極的な実施や、学生を対象としたキャリア教育プログラムの受入人数拡大など、人材の確保に関する取組を実施している。

障がい者の雇用拡大のため、市役所内に軽作業などを行う(仮称)ワークサポートルームの立ち上げを目指し、また、障がいのある職員が、スムーズに職場で働くためのサポートをする、ジョブコーチの配置を準備しております。

教育長

目指すところは、学校が子どもたちのための業務に専念できる環境や、教員が子どもたちとかわる時間を増やし、教育の質を向上させることだと考えております。

教員が誇りや、やりがいを感じるのには、子どもたちの成長を日々感じ、子どもたちと十分に向き合える時間が確保されている状況です。そしてこれらのことは、子どもたちにとっても、一番幸せなことであると考えております。

「教育は人なり」だと考えておりますので、これからも、町田市立学校でぜひ働きたいと思っていただけるように、環境整備などに取り組んでまいります。

今村か市議の要望

正社員だけでなく非正規やパートなどで働く方や、ダイバーシティ・多様性にも配慮して、女性や外国にルーツのある方、LGBTqなど様々な方にも配慮し、多様性のある働きやすい職場環境実現に取り組むよう求めました。

プロフィール

略歴 1968年町田市生まれ すみれ・草笛・小野路保育園 藤の台・金井小学校 薬師中学校 基督教独立学園高校 和光大学 町田市議会4期当選後 東京都議会3期 都議選で2回惜敗 2022年3月町田市議会当選(5期目) 町田市青年学校担当者 町田市立小学校中学校PTA会長 町田市消防団員 高齢者施設生活相談員 障がい者施設理事・理事 児童養護施設理事・評議員 保育園監事・理事・評議員などを歴任 資格 社会福祉士 精神保健福祉士 社会教育士 家族 妻(作業療法士・医療ソーシャルワーカー)長女(大学生)長男(高校生)



詳しくはこちらをご覧ください



2024年9月一般質問

まちだ健康づくり推進プラン24-31について

質問のねらい

2023年12月一般質問で保健所に、メンタルヘルスへ対策、依存症対策を、教育委員会には子どもたちの自殺防止・オーバードーズへの一層の取り組み等々について市の取り組みを質した。その後、表題の計画が策定されたので新たな市の取り組みと特にからだの健康や感染症対策について取り組みの強化を求めて質問した、とのことでした。

町田市の答弁

(新計画)「からだの健康を支えるまち」では、市民の皆様が、自分自身の健康状態を把握し、健康に関する正しい知識を持ち、活用する支援や、健康づくりの活動を通して、市民のつながりを創出すること。
[新興感染症や大規模災害に対応できるまち]では、新興感染症や大規模災害などの健康が脅かされる危機が発生した時に備え、円滑な感染拡大防止対策や医療救護活動が実施できる体制づくりを目指します。
(自殺対策)児童・生徒に対し、不安や悩みがある場合は、教職員等、身近にいる信頼できる大人に相談するよう周知、夏休み前に実施した心のアンケートの実施結果を改めて見直し、特に気になる児童・生徒に対して、丁寧な見取りと対応を行うこと、児童・生徒に配備しているタブレット端末の相談窓口等について、児童・生徒に改めて周知すること等を実施しております。

第3次町田市環境マスタープランについて

質問のねらい

2023年12月議会にてゼロカーボンシティまちだに向け、特に次世代自動車について質問したので、今回は特にごみ排出量低減策と26年度全市廃プラ収集に向けごみ収集体制の効率化などにふれ、脱炭素社会へ向けた取組の推進を求めた、とのことでした。

町田市の答弁

2026年度から、市全域で容器包装プラスチックの分別収集・資源化を行います。ごみの焼却により発生する温室効果ガスは、容器包装プラスチックを焼却せずに、資源化することによって、年間で1万1,000t-CO2削減できる。

この容器包装プラスチックの収集区域の拡大によって、収集する車両の台数は増加しますが、地区割などを工夫し、効率的な収集体制となるように検討してまいります。

2024年12月一般質問

チルドレンファーストのまちづくりについて

質問のねらい

「子どもにやさしいまち条例」が制定され1年となるので、改めて全庁的に子どもの意見を聴き、取り入れるなどの取り組み等が行われているか、来春「子ども家庭ソーシャルワーカー」資格化が始まるので専門性を有する職員の配置も求めつつ、今後の取り組みが一層推進されるよう質すため、とのことでした。

町田市の答弁

主役である子どもを対象としたアンケート調査や、直接子どもの声を聴くため「子ども参画ミーティング」を開催。子どもに関する部署の事業のみならず、町田市が行う様々な施策について市全体で子ども視点の施策を実施する。今後、地域の方と公園の利用方法や、公園のあり方を話し合う場を設けて、地域ニーズを把握し、解決方法を共に考える取り組みを広げていく。(仮称)子ども家庭センターに、相談援助業務ができる「子ども家庭ソーシャルワーカー」資格を持つ職員が加わることに、将来にわたって必要な人材を円滑に確保することに繋がればよいと考えている。

働きやすい町田について

質問のねらい

「フリーランス・事業者間取引適正化等法」施行に伴う市の対応と、働く市民への支援など労働環境に関し、市の取り組みを質すため、とのことでした。



詳しくはこちらをご覧ください

町田市の答弁

フリーランス・事業者間取引適正化等法については、国が作成したチラシを窓口で配架して周知。労働関係の法律改正があった場合、国や東京都の動向を注視し、町田商工会議所等と協力して、速やかに広報周知を行い、市HPでも法律の概要や利用できる支援の情報、相談窓口等を紹介。

選挙権・被選挙権の権利保障について

質問のねらい

市議会初当選以来、選挙後に必ず質問してきた。期日前・当日投票所の充実を求めてきたが、今般投票所にてAED使用により救命された事例があったので投票所に100%設置を求めるなど、利用しやすい投票所と今後の開設時間の見直しの検討など市の所見を確認するため、とのことでした。

選挙管理委員長の答弁

当日投票所全67箇所のうち56箇所に設置。投票所の閉鎖時間の繰り上げなど見直す予定はない。

総務常任委員会 決算審議

委員会の決算審議は、昨年度町田市が行なった施策について税金が有効に使われたかなど検証するために4つの常任委員会に分かれてそれぞれ所管部分について決算審議を行います。

今村るか市議会議員によると、法の趣旨に基づき「障がい者優先調達推進法」での調達を一層推進する必要性を求めたり「障がい者雇用促進法」による市役所の雇用率未達成は強く改善を求めたりしたとのこと。

公文書管理する職員には国が推奨している「アーキビスト研修」を行い、適切な公文書の公開・管理を求めたとのこと。

決議・意見書作成

地方自治法に基づいて、国や東京都等に対して町田市議会として意見・考えを提出することが出来ます。今村るか市議会議員が作成した意見書は以下の通りです。

2024年6月町田市議会に「日本版DBS法の着実な実施とさらなる充実を求める意見書」を提出。
DBS法は「学校設置者等及び民間教育保育等事業者による児童対象性暴力等の防止等のための措置に関する法律」と言います。子どもが通う施設への適用拡大と学校設置者等の負担軽減を求めた内容です。本会議では可決されています。

2024年9月町田市議会に「公立小中学校で使用されるタブレット端末の整備・更新における市区町村の財政的・事務的負担の軽減を求める意見書求める意見書」を提出。

2019年度GIGAスクール構想に基づき、小中学校全児童生徒に一人1台のタブレット端末整備を行った。タブレット端末購入・リースにかかるスキームは2020年度当時は全児童生徒数の2/3相当数を国が負担し、1/3相当数は市区町村の負担となっており、東京都にも財政支援を求める内容です。本会議にて否決されています。

2024年12月町田市議会に「水道におけるPFOS及びPFOAの暫定目標値を早期に国の責任において一層安全な値へと改めることなどを求める」意見書を提出。全国の水道水から国の暫定基準値を超過した有機フッ素化合物が検出されたことを受け、国により一層安全な基準値を制定するように求めたものです。本会議で否決されています。

それぞれの詳しい内容は町田市議会HPで「意見書・決議一覧」をご参照ください



詳しくはこちらをご覧ください

「ご意見ご要望ご感想、身近なお困りごと
相談などをお寄せください」

TEL 090-3810-3892 rukaruka.info@gmail.com